

2024年9月期 中間決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年5月15日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社碧

コード番号 3039 URL <https://www.heki.co.jp>

代表者（役職名）代表取締役（氏名）金城 智子

問合せ先責任者（役職名）経営企画部長（氏名）福地 邦男 TEL 098-863-1533

中間発行者情報提出予定日 2024年6月28日 配当支払開始予定日 —

中間決算補足説明資料作成の有無：無

中間決算説明会の開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2024年9月中間期の業績（2023年10月1日～2024年3月31日）

(1) 経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期中間期	477	1.3	△3	—	△4	—	△5	—
2023年9月期中間期	471	47.1	△1	—	△1	—	△1	—

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期中間期	△9.54	—
2023年9月期中間期	△2.18	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期中間期	701	153	21.9	259.90
2023年9月期	674	158	23.6	269.45

（参考）自己資本 2024年9月期中間期 153百万円 2023年9月期 158百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	0.00	0.00	0.00
2024年9月期	0.00		
2024年9月期(予想)		0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年9月期の業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	960	7.5	5	—	2	—	1	—	2.52

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表に特有の会計処理及び簡便な会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式含む）	2024年9月期中間期	590,000株	2023年9月期	590,000株
② 期末自己株式数	2024年9月期中間期	—株	2023年9月期	—株
③ 期中平均株式数（中間期）	2024年9月期中間期	590,000株	2023年9月期中間期	590,000株

※ 中間決算短信は公認会計士または監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想など将来予測情報に関する説明	3
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
3. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	7
(3) 中間株主資本等変動計算書	8
(4) 中間キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 中間財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の経営成績

当中間会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類の引下げに伴う影響縮小や海外からの入国制限の緩和により個人消費の増加の動きが見られ、景気は回復基調となりました。一方、新型コロナウイルス感染症が収束に向けて動きが加速する中で、不安定な世界情勢やエネルギー資源の高騰、インフレ加速に対する各国金融引締め政策といった景気減速のリスクは依然として残されており、国内においても円安基調による物価高の長期化や人手不足による経済減速懸念等不確実性が高まり、先行きの見通しにくい経営環境となっております。しかしながら、飲食業界における経済活動が回復へ向かって動き出しており、また、海外に関しては感染状況が深刻でしたが、人の往来に対する制限が緩和されたことから、インバウンドを含む観光客の増加に伴い消費活動が徐々に活発化しております。

このような環境の中、当社は「会社の発展と社員一人ひとりの幸福と株主の利益拡大のためにお客様に満足感をご提供する」ことを企業理念として定め、「お客様と従業員の安全確保」を最優先事項として店舗運営に取り組んでまいりました。

営業面においては引き続き、メニューラインアップの増加に注力し、継続的に取り組んでいる社内イベントとして新商品開発表彰制度による商品開発に取組み、一品メニュー、季節に合わせた限定メニュー等の販路拡大に努めたことにより、インバウンドを含む観光客の来店客数、客単価は増加傾向にあります。また、2023年12月にしゃぶしゃぶの専門店紺若狭店がオープンし、他の店舗より小型店舗となっておりますが、しゃぶしゃぶをメインに新たなニーズにお応えすべく洗練された接客を提供しております。

以上の結果、当中間会計期間の売上高は477,966千円（前年同期比1.3%増）、営業損失は3,452千円（前中間会計期間は1,407千円の営業損失）、経常損失は4,831千円（前中間会計期間は1,110千円の経常損失）、中間純損失は5,627千円（前中間会計期間は1,283千円の間純損失）となりました。

なお、当社はレストラン事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当中間会計期間末における流動資産は、前事業年度末と比べ5,833千円増加し、522,194千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加18,126千円、売掛金の増加8,613千円、前払費用の増加2,644千円、預け金の増加1,785千円、未収消費税等の減少26,466千円によるものであります。

(固定資産)

当中間会計期間末における固定資産は、前事業年度末と比べ21,314千円増加し、179,557千円となりました。これは主に、建物の増加23,824千円、建設仮勘定の減少2,600千円によるものであります。

(流動負債)

当中間会計期間末における流動負債は、前事業年度末と比べ23,109千円増加し、126,870千円となりました。これは主に、一年内返済予定の長期借入金の増加17,502千円、未払消費税等の増加12,233千円、買掛金の増加1,835千円、預り金の減少1,814千円、未払費用の減少1,473千円、賞与引当金の減少1,299千円によるものであります。

(固定負債)

当中間会計期間末における固定負債は、前事業年度末と比べ9,666千円増加し、421,535千円となりました。これは主に、長期借入金の増加5,170千円、資産除去債務の増加2,580千円、退職給付引当金の増加1,553千円によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産は、前事業年度末と比べ5,627千円減少し、153,345千円となりました。これは、中間純損失の計上による繰越利益剰余金の減少5,627千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して18,126千円増加し、435,377千円となりました。

当中間会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は16,551千円となりました。これは主に、未消費税等の減少額26,466千円、未払消費税等の増加額12,233千円、売上債権の増加額8,613千円、未収入金の増加額2,332千円、減価償却費の発生2,899千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は20,806千円となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出21,379千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は22,381千円となりました。これは主に、長期借入による収入27,000千円、長期借入金の返済による支出4,328千円によるものであります。

(3) 業績予想など将来予測情報に関する説明

2024年9月期通期の業績予想につきましては、2023年11月15日に公表しました「2023年9月期決算短信」をご参照ください。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言に伴う営業時間短縮要請や外食需要の冷え込みの影響を受け、来店客数・売上高ともに大きく減少し、2023年9月期におきましては営業損失45,062千円、当中間会計期間におきましては営業損失3,452千円を計上しております。

新型コロナウイルス感染症の収束及び外食需要は徐々に回復がみられるものの、営業債務や借入金返済の原資となる売上獲得が見込めず将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。当該状況を解消または改善するために、当社では以下の対応策を講じてまいります。

売上改善策

① 鉄板焼ステーキレストラン「碧」事業部

主力商品の大幅な変更はありませんが、リーズナブルな価格帯のランチメニュー改善やサイドメニューのラインアップ増加を図るとともに、SNSを活用し季節に合ったイベント企画の実施により新規顧客の開拓に繋げてまいります。

インバウンドを含む県内の観光需要の増加に向け各店舗の原材料の高騰に対し販売商品の価格転嫁を適正に実施しながら店舗展開に取り組んでおります。

② しゃぶしゃぶの専門店「紺」事業部

幅広い主力商品をメインに、鮮魚メニューの開発、季節に合ったイベント企画の実施により新規顧客の開拓に繋げております。

那覇市若狭にしゃぶしゃぶ紺若狭店を2023年12月にオープンし、店舗の周知活動を強化することで、集客を図り原材料の高騰に対し販売商品の価格転嫁を適正に実施してまいります。

また、「碧事業部」「紺事業部」全店において継続的に新商品開発表彰制度を設け、各店舗からの新商品が提案出品されることで売上高増加に繋げてまいります。

なお、上記の売上改善策に加え、当中間会計期間の末日現在において現金及び預金を435,377千円保有し十分な手元資金を確保していることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、中間財務諸表等への注記は行っておりません。

3. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当中間会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	417,250	435,377
預け金	28,296	30,081
売掛金	16,890	25,504
商品及び製品	2,441	3,517
原材料及び貯蔵品	12,217	12,997
前払費用	9,719	12,364
未収入金	125	1
未収消費税等	26,466	—
その他	2,952	2,350
流動資産合計	516,360	522,194
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	56,159	79,983
車両運搬具（純額）	230	114
工具、器具及び備品（純額）	1,217	1,014
建設仮勘定	2,600	—
有形固定資産合計	60,207	81,111
無形固定資産		
電話加入権	28	28
無形固定資産合計	28	28
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
保険積立金	41,013	41,460
長期前払費用	635	473
敷金・保証金	56,357	56,482
投資その他の資産合計	98,007	98,416
固定資産合計	158,242	179,557
資産合計	674,603	701,751

(単位:千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当中間会計期間 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,412	20,247
一年内返済予定の長期借入金	14,151	31,653
未払金	15,517	15,138
未払費用	34,312	32,839
未払法人税等	585	292
未払消費税等	—	12,233
預り金	6,342	4,527
賞与引当金	8,871	7,572
その他	5,567	2,366
流動負債合計	103,760	126,870
固定負債		
長期借入金	335,507	340,677
リース債務	2,468	2,178
退職給付引当金	26,866	28,419
資産除去債務	46,009	48,589
繰延税金負債	1,018	1,671
固定負債合計	411,868	421,535
負債合計	515,629	548,405
純資産の部		
株主資本		
資本金	55,000	55,000
資本剰余金		
資本準備金	25,000	25,000
資本剰余金合計	25,000	25,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	78,973	73,345
利益剰余金合計	78,973	73,345
株主資本合計	158,973	153,345
純資産合計	158,973	153,345
負債純資産合計	674,603	701,751

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	471,872	477,966
売上原価		
商品及び製品期首棚卸高	2,113	2,441
当期商品仕入高	17,098	17,643
当期製品製造原価	242,415	248,145
合計	261,627	268,231
商品及び製品期末棚卸高	2,179	3,517
商品及び製品売上原価	259,447	264,713
売上総利益	212,425	213,252
販売費及び一般管理費	213,832	216,705
営業損失(△)	△1,407	△3,452
営業外収益		
受取利息	1	1
保険解約返戻金	1,178	—
その他	483	682
営業外収益合計	1,663	683
営業外費用		
支払利息	1,121	1,596
その他	245	466
営業外費用合計	1,366	2,062
経常損失(△)	△1,110	△4,831
特別利益		
補助金収入	—	150
トライアル雇用助成金	120	—
特別利益合計	120	150
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税引前中間純損失(△)	△990	△4,681
法人税、住民税及び事業税	292	292
法人税等調整額	—	653
法人税等合計	292	946
中間純損失(△)	△1,283	△5,627

(3) 中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主 資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	55,000	25,000	25,000	127,486	127,486	207,486	207,486
当中間期変動額							
中間純損失(△)				△1,283	△1,283	△1,283	△1,283
当中間期変動額 合計	—	—	—	△1,283	△1,283	△1,283	△1,283
当中間期末残高	55,000	25,000	25,000	126,202	126,202	206,202	206,202

当中間会計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主 資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	55,000	25,000	25,000	78,973	78,973	158,973	158,973
当中間期変動額							
中間純損失(△)				△5,627	△5,627	△5,627	△5,627
当中間期変動額 合計	—	—	—	△5,627	△5,627	△5,627	△5,627
当中間期末残高	55,000	25,000	25,000	73,345	73,345	153,345	153,345

(4) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間	当中間会計期間
	(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△990	△4,681
減価償却費	247	2,899
利息費用	150	155
補助金収入	—	△150
トライアル雇用助成金	△120	—
固定資産除却損	0	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,156	1,553
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,349	△1,299
受取利息及び受取配当金	△1	△1
支払利息	1,121	1,596
売上債権の増減額(△は増加)	△10,553	△8,613
棚卸資産の増減額(△は増加)	955	△1,855
未収入金の増減額(△は増加)	△2,209	123
仕入債務の増減額(△は減少)	3,917	1,835
未払費用の増減額(△は減少)	△1,251	△2,130
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	26,466
未払消費税等の増減額(△は減少)	△60,264	12,233
未払金の増減額(△は減少)	2,939	△379
その他	△11,362	△9,827
小計	△73,216	17,924
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△1,115	△939
補助金収入	120	150
法人税等の支払額	△585	△585
営業活動によるキャッシュ・フロー	△74,796	16,551
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△21,379
敷金の差入による支出	△1,977	△213
敷金の返還による収入	5,400	786
資産除去債務の履行に伴う支出	△5,963	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,540	△20,806

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△145	△290
長期借入による収入	—	27,000
長期借入金の返済による支出	—	△4,328
財務活動によるキャッシュ・フロー	△145	22,381
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△77,481	18,126
現金及び現金同等物の期首残高	550,326	417,250
現金及び現金同等物の中間期末残高	472,844	435,377

(5) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は、レストラン事業の単一セグメントであるため、セグメント情報については記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。